

一進路部通信一

新宿通信

NO. 115

- 大学入学共通テスト関係
- 「自由な時間」をどう過ごすか

選択の連続

保健体育科 神山 大樹

中学3年生の進路を決める時、バレーを思いきり出来る高校に行きたいと考え、いくつかお話をいただいている中から、文武両道ができる中高一貫校を選びました。聞いていた話よりも激しい高校生活を送ることになったことは言うまでもなく、365日バレーに明け暮れる日々でした。そんな中、友人が勉強に励む姿を見て、必死に授業課題考查に臨んだことを覚えています。もうあの生活には戻りたくありません笑

その中で、体育が何よりの楽しみでした。元々得意で好きでしたが、体を動かす爽快感、できた時の達成感、仲間と協力する充実感を得られる体育の時間がたまらなく好きでした。私のつらく苦しかった高校生活を体育の存在が明るく照らしてくれたのです。大げさではありません。

将来、この楽しさや達成感を伝えられる仕事に就きたいと思い、体育系の進路を選びました。大学生活はほとんどが体育の授業になり、座学もそれに関するものばかりです。どれも興味のあるものばかりでした。暑苦しい（肉体的にも精神的にも）友人たちと出会い、夢中になって体を動かし、必死に勉強しました。行かなくてもいい段階から研究室に潜り込み、研究室のお手伝いをしていたことも。そんなことする人間ではなかったのに…。体育が好きで仕方がなかったです。

大学時代に教員になると決心した出来事が2つあります。1つ目はコーチの経験です。大怪我で、現役続行が厳しいと言われた時に、名門チームからコーチの依頼があり指導することになりました。日本一を目指すチームで指導した日々は私のバレー観を大きく変えました。基礎基本の徹底、継続の重要性、怪我に対するケア、高度な戦術の共有、トレーニングから技術への移行、人間力の向上など全てが学ぶことばかり。結果、日本一を経験することができたんです。選手たちのお陰で貴重な経験ができましたし、大学での学びを生かせることにもやりがいを感じ、指導者になりたい意欲が高まったことを覚えています。

2つ目は教育実習です。ある中学校に行き、忙しさとやりがいの中で苦しました。そんな中、私の担当する授業で気になる男子生徒と出会いました。「運動が苦手で嫌いなんです」と話す生徒でした。その時、使命感に燃え一生懸命授業を考えて、その生徒にも他の生徒にも積極的に声を掛けました。最後の授業の時に運動が苦手なその生徒が私に手紙をくれました。受け取る時に「神山先生、運動が少し好きになりました」と言われ不覚にも泣いてしまいました。私は、その瞬間に「一生をかける価値がある仕事だ」と勝手に確信し、採用試験の勉強に一気に身が入りました。本当に単純な人間です笑

人生で様々な分岐点がありますが、行動を起こすことが大切だと私は考えます。生徒の皆さんも何かを必死に続けると素敵なお出会いや思いがけない出来事に遭遇するかもしれません。皆様に良き出会いがありますように。

○大学入学共通テスト 速報

1月17・18日の2日間、大学入学共通テストが実施されました。新課程2年目となる今年度は、前日に山手線を中心とする停電トラブルがあり心配されましたが、大きな混乱なく実施されました。

翌19日には自己採点をし、集計結果を各予備校に提出しました。大学入試センターから発表された平均点の中間集計と新宿校生の点数との比較を右の表にまとめました。このうち、主に国公立大学志望者である文系6-8科目（1000点満点）の平均点が全国比+139点、理系6-8科目（1000点満点）の平均点が全国比+123点でした。今年度は得点調整はありませんでした。平均点の最終発表は2月5日（木）です。

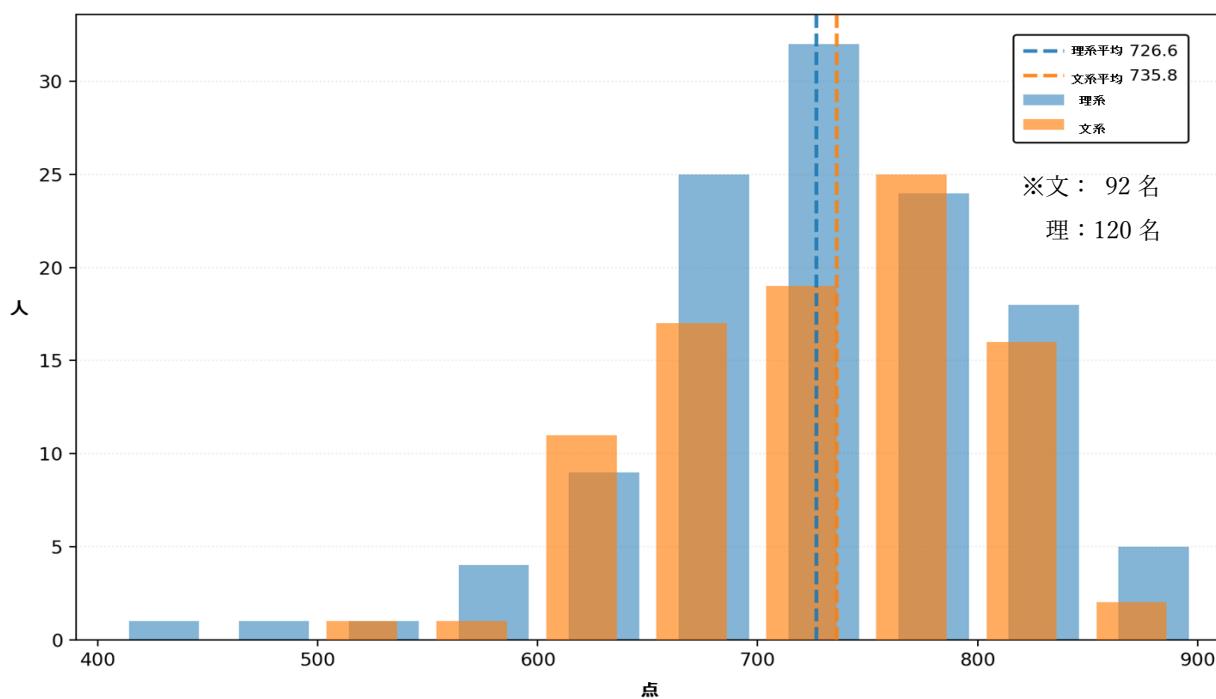
現在、河合塾と駿台・ベネッセ、東進ハイスクールから自己採点の集計に基づく合格目標ラインがネット上で発表されています。これらをもとに、国公立大学2次試験の出願を行ってください。今年度の国公立大学の出願は1月26日（月）～2月4日（水）です。前期日程だけではなく、後期日程などの出願もこの時に行います。注意しましょう。文系理系ともに平均点がダウンした影響もあり、各予備校の分析では多くの難関国立、医学部などで志望者数が減少し、合格ラインも下がると予想されています。家族、学校の先生など様々な人の意見を聞き、最終的には自分で、出願校を決定しましょう。

現役生はこれからも学力が向上します。私立大学、国公立2次試験に向けて最後まで諦めず、前向きに学習に取り組みましょう。

教科	科目	新宿高校	全国
国語	国語	145.0	116.1
数学	数学ⅠA	62.0	50.6
	数学ⅡBC	68.0	58.9
英語	リーディング	87.3	64.8
	リスニング	73.3	56.4
地歴	歴史総合 世界史探究	73.6	62.8
	歴史総合 日本史探究	78.5	64.2
	地理総合 地理探究	71.7	64.2
	公共倫理	79.5	65.2
	公共政経	81.1	65.9
	物理	58.2	47.5
	化学	74.3	59.6
理科	生物	69.9	56.7
	物理基礎	41.9	36.4
	化学基礎	36.2	30.2
	生物基礎	43.5	37.7
	地学基礎	34.4	29.3
	情報	情報Ⅰ	59.8
	文系6-8	735.8	596.0
総合	理系6-8	726.6	603.0

※総合は大学入試センターからの発表がないため、大学入学共通テスト自己採点集計サービスの最終集計（約40万人）をもとにした河合塾・駿台・ベネッセの推定値です。（1/20時点）

新宿高校国公立型 得点分布（満点1000点・50点刻み）



○共通テスト問題講評

以下は「駿台・ベネッセデータネット 2026」による問題講評の抜粋です。紙面の関係上 3 科の概要のみ掲載します。

国語

設問数は昨年より増加したが、解答数は 1 個減。昨年に統いて単一テキストからの出題であった第 1 問を除き、第 2 ~ 5 問では複数テキストや言語活動の設問で情報を比較したり関連付けたりする思考力が問われた。第 3 問ではグラフや表の読み取りはなかった。易しかった昨年にくらべて第 1 問・第 2 問が難しく、昨年より難化。

数学

数学 IA は第 2 問〔1〕「2 次関数」は、対話形式ではあるが、昨年のような日常の事象に関する問題ではなく、最大値・最小値の条件から 2 次関数を決定する問題であった。昨年出題された仮説検定の考え方や、期待値に関する問題は出題されなかった。誘導の意図をつかめないと解答に時間がかかる問題が多く、昨年より難化。IIBC は第 1 問「図形と方程式」、第 6 問「ベクトル」で、領域の図示に関する問題が出題された。第 7 問は、「複素数平面」主体の出題であるが、2 次曲線の概形を選ばせる設問があった。各大問の導入部分は取り組みやすいが、後半部分は前半の考えを発展させる問題が多くかった。難易は昨年並。

英語

リーディングでは題材は昨年同様、日常的な文章から説明文まで様々なものが扱われた。設問では、出来事の順序を問う問題や、複数の資料を読んで内容を整理する問題、文章の論理構成に配慮して訂正する問題などが出題され、昨年同様に多面的に情報を処理することが求められた。素直で取り組みやすい問題が多く、昨年よりやや易化。リスニングでは昨年に続き、音声情報とイラストや図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が

出題された。場面に応じた聞き取りを要する実践的な英語力が問われ、一部の問題では情報を統合的に処理する力が求められた。講義全体を理解する必要がある問題や、放送文からの言い換えに注意が必要な難しい問題もみられたため、昨年よりやや難化。

どの科目についても、これまで学習してきた知識と初めて見る資料を組み合わさる思考が必須となっています。日々の授業では与えられたものをただ暗記するだけでなく、常になぜ?を考え思考力を鍛えましょう。また、探究活動や理科の実験を中心とする様々な活動でグラフ及び表や図を描く癖をつけ、適切な資料の作り方や読み取り方を身に付けましょう。

○「自由な時間」をどう過ごすか

1 月と 2 月には都立高校の入学試験があります。試験の当日や直後の採点日は登校禁止期間となり、在校生の皆さん自宅学習になります。学校から離れる「自由な時間」をどう過ごすか、ぜひ考えてみてください。

2 年生は 3 年 0 学期が始まっています。つまり、2 年生というよりも「3 年生の助走期間」に入っているのです。大学入試共通テストまで、あと 1 年を切りました。この助走期間を、1 年後に「あの時に頑張っておいてよかった」と思えるような基礎定着の期間にしましょう。

1 年生にとっては、これまでの高校生活を振り返り、今後に向けて改めて自分の生活を見直す大切な時期です。特に基礎力が足りていない苦手科目については、今のうちに少しでも借金を返しておきましょう。

「自由な時間」 = 「自分の責任で過ごす時間」です。流れていく時間に身を任せて過ごすのではなく、しっかりととしたタイムマネジメントを行っていきましょう。その時間にどのような価値を持たせるか、それを決めていくのは自分自身です。

先輩からの言葉

ありのままが自分を創る

行政書士

50 回生 岡安哲哉

とりあえずでも心が動いたらそれをやってみようとすると視野は広がり、次のやりたいことに自然とつながっていく。

そんな考えなので、あまり長期的な計画を立てるのが上手な人間ではなく、どちらかというと衝動的

いうか、短絡的というか、親に心配をかけるタイプの人間です。高校時代はサッカーチームで、コーチとマネージャーの選択をめぐって部会で熱く議論したのをよく覚えています。新宿中央公園での恒例の打ち上げや、旧校舎と新宿御苑を隔てる堀の穴から深夜に新宿御苑へ忍び込んだことなど、今ではきっとアウト（当時もですが）な高校生活の青春を謳歌していました。

「法学部なら潰しがきくだろう」と友人が言ったのを真に受けて大学は法学部を志望し、勉強するのは人生これきりだ！と自分に言い聞かせて受験勉強に励みました。

私の半生での転機は2度。1度目は大学2年時にアメリカへ一人旅をしたことでした。4都市周遊の飛行機チケットだけを予約し、各地へ降り立ってから宿を探し、街を歩く。たくさん怖い思いもしましたがそんな無謀な旅が大学卒業後のオーストラリアワーキングホリデーでのバックパッカーへつながり、その海外経験が2度目の転機である、アフリカの在ザンビア日本大使館への駐在勤務へつながりました。「アフリカのどこ！？」と初めは戸惑いましたが、現地ではたくさんの学びがありました。これまで自分が高校そして大学と希望のまま進み、東京で不自由なく平和に暮らす、それがどんなに幸せで有り難いことかということを、アフリカの貧困を目の当たりにして深く感じました。

その後大きくキャリアチェンジして山口県へ移住し福祉の仕事を始めました。介護福祉士や介護支援専門員などの資格を取得して、介護を学ぶ外国人を教育することになりましたが、外国人のみなさんが不安なく働く環境、制度が不足していると感じ、それに取り組む方法の一つとして法律で彼らを守る、行政書士という資格を取得しました。大学受験で人生これきりと思ったのに、結局、その後も資格の受験勉強が続いたわけです。

そうして現在、私は行政書士という仕事をしています。

行政書士という職業は普通に生きているとあまりで出会わない職業です。行政、つまり国や自治体に提出する書類を作成するのが行政書士の一般的な仕事ですが、私は行政書士業務の中でもまだ少数派である、外国人が日本で働くため、住むために必要な「在留資格」を取得するための申請をするのが主な仕事です。ベトナムやミャンマーなど、私が関わる多くの外国人にとって日本に働きに来るというのは非常に大きなチャレンジです。今は、自分の行い一つがその人たち、その家族の人生に大きなチャンスを与えることができる、とても意義ある仕事だと感じています。

最初の一歩であったアメリカへの旅が次の世界につながり、寄り道しながら、当時思いもしなかった職に辿り着きました。振り返ると就いた職業はバラバラでしたが、自分らしく、自分に合ったことを続けてきたな、とも感じます。

自分を変えることや変わること、やってみたいこと、その時の思いは必ず次の行動となり、積み重ねが自然と形になっていくはずです。若い皆さんには恐れず面白そうな寄り道をしてみてはどうでしょうか。親御さんも、我が子が初めて立ったときと同じようにその一歩と一緒にワクワクして見守ってあげてください。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)

※今後の予定（進路関係）

1/30(金)	1, 2学年全統模試
2/4 (水)	1学年キャリアガイダンス